

VIII 環境保全型農業の取組による効果

有機農業



化学肥料・化学合成農薬を使用しない取組

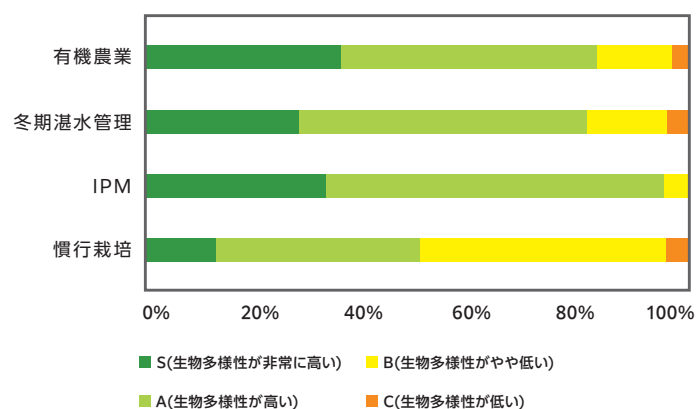


生物多様性
保全効果

地球温暖化
防止効果

- ・化学合成農薬を利用しない→カエルやクモ、トンボなどが増加する
生物多様性保全効果
- ・堆肥等の利用→土壌炭素貯留による地球温暖化防止効果

取組ほ場での調査結果



※第2期第4回第三者委員会 資料3より抜粋

堆肥の施用



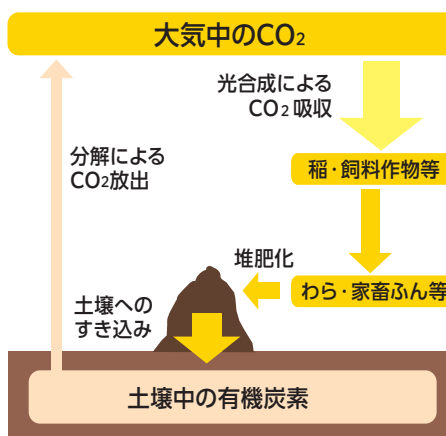
主作物の栽培期間の前後のいずれかに堆肥を施用する取組



地球温暖化
防止効果

堆肥（有機物）を農地土壌に施用することで、土壌中の炭素貯留量を増加させ、間接的に大気中のCO₂削減に貢献

取組による効果



わらや家畜ふん等から製造した堆肥を土壌にすき込むことで、稲や飼料作物が生育中に吸収したCO₂を有機炭素として土壌中に蓄積。土壌中の有機炭素は時間とともに分解されるが、分解される有機炭素の量よりも土壌に入る有機炭素の量が多ければ土壌中の有機炭素量は増加する。